

# 平塚製造所CSRレポート

**生産品目:** 航空機用部品、スポーツ用品、各種接着剤・シーリング材、コンパヤベルト、マリンホース、防舷材、その他各種工業品など

**敷地面積:** 999,000m<sup>2</sup>(ハマタイト工場、D-PARC、T\*MARYを含む)

**従業員数:** 1,772人(2009年6月現在)

**所在地:** 〒254-8601 神奈川県平塚市追分2番1号  
TEL 0463(35)9501



◀ 平塚製造所 ▲ ハマタイト工場  
平塚製造所はハマタイト工場(平塚市四之宮)を含んだ総称です。

## 製造所長ご挨拶



伊澤 俊夫

平塚製造所では「社会に対する公正さと環境との調和を大切にする」を規範に、横浜ゴムの中期経営計画「GD100」の基本方針のひとつ「トップレベルの環境貢献企業」達成に向け、環境方針を見直しました。この方針の下、今まで進めてきた環境負荷排出量の極小化による高い排出規制への対応をさらに向上させると同時に、行政・地域の皆さまとのさまざまな活動やコミュニケーションを通じて「地域になくはならない防災や安全、環境浄化の機能を持った事業所に創りかえる」ことを目指しています。2008年度はコンプライアンスの徹底を基本に「防災・安全レベルの向上」、「地域貢献」、「地域コミュニケーション」の3つに主体を置き、県立平塚ろう学校へのAED指導、平塚防災インストラクター主体の防災訓練指導、地域行事への参加、平塚ものづくり教室支援、第5回近隣自治会コミュニケーションなどを実施しました。また、自然環境の保護と地域の皆さまとの共生を目的に継続している「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトは、これまでに28,163本を植樹しました。今後も

こうした活動を継続する中で平塚市の中心に位置する化学工場であることを肝に銘じ、地域発展・共生に貢献していきたいと考えています。

## 2009年度環境方針

**横浜ゴム(株)は「トップレベルの環境貢献企業」を目指す。**

- (1) 環境経営の持続的改善を実現するため、平塚製造所を構成するすべての部門・関連企業において、自ら定めた環境マネジメントシステムに従い、手順を確立し、維持改善する。
- (2) 心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献し、社会的責任として「環境に貢献する改善」と「環境リスクの予防」を継続的に企画し、実践する。
- (3) 関連する法規制および同意した協定などを順守し、環境保全に取り組む。
- (4) 限りある地球資源を守るため、そのムダ使いを防止する行動(MD)を実践し、3R\*を推進する。  
\*Reduce:発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再生使用
- (5) 本方針を具現化するため、環境に影響を与える製造所の本来業務を自覚し、環境目的・目標および計画を作成し、実行する。
- (6) 平塚製造所で働くすべての人が、本方針を理解し行動するよう教育と啓蒙を行い周知徹底する。
- (7) 湘南平塚のおおらかな自然との調和・融合をもとに美しく豊かな社会形成に貢献し、地域との共生を目指す。
- (8) 本方針は、公開する。

## 主な地域との交流活動

### 平塚ものづくり教室を開催

2008年6月、平塚市立崇善小学校に従業員が訪問し、同校の6年生を対象に「ものづくり教室」を開催しました。電池で動くおもちゃの工作キットを提供し、組み立て方から実際に動かすまでを従業員が指導しました。

### 文化支援

2001年に平塚市に寄贈した「横浜ゴム平塚製造所記念館」の八幡山公園への移築復元工事が2009年3月に完了しました。同年4月から平塚市の文化施設「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」としてコンサートやセミナー、サークル活動に利用されています。



小学生に作り方を教える従業員



移築した「旧横浜ゴム平塚製造所記念館」

### 近隣自治会コミュニケーション会の開催

2009年2月、工場周辺の5自治会の方々36名を製造所に招いて「第5回近隣自治会コミュニケーション会」を開催しました。

### その他の活動

2008年8月、県立平塚ろう学校の教職員を対象に、「AED(心肺停止時の救命機器)講習会」を実施したほか、地元自治体、町内会で行われる防災訓練に従業員が指導員として参加しています。また、平塚七夕祭りや環境フェアなどの地域行事の活性化にも協力しています。



コミュニケーション会の様子



平塚七夕祭の横浜ゴムの笹飾り

## 環境リスク訓練

ハマタイト	液体流出防止訓練	19名
	ロール救出訓練	35名
総務関連	油水分離槽管理・廃油置き場管理	10名
	汚水ポンプ管理・排水事故処理管理	11名
	路上における車両運搬車等での異常対応	10名
総務関連(守衛所)	緊急時(火災)の対応と消防車操作手順	7名
総務関連(診療所)	診療所の感染性廃棄物の処理手順	2名
MB保全課	ボイラー水中装置PH異常時の処理	—
	排水管理標準一般	—
	油分離装置管理標準一般	—
購買部資材2課	プロセスオイル受け入れ業務手順	10名
	油水分離槽管理業務	10名
	カーボン投入(コンテナカーボン取り扱い作業)	10名
	デフレックスタンク(プロセスオイル取り扱い作業)	11名
ホース試験課	油漏洩時の処置	7名
航空部品	真空脱脂洗浄機ダクト破損からの流出	3名
	スクラバー槽からの流出	5名
	DI廃液槽からの流出について	2名
	No5放流槽からの流出について	5名
	原料流出の緊急処置訓練	8名
	セメント・ナイロン作業時の処置訓練	2名
	大型加硫缶ドライ加硫操作異常時の訓練	2名

航空部品	ドラム缶転倒による流出処置訓練	3名
	浸透探傷廃液処理装置異常時の訓練	7名
	地下タンク異常時の処置訓練	8名
	第12消防隊消化訓練	60名
	ドラム缶転倒による油、溶剤の流出処置訓練 流出事故が発生した時の緊急処置について	7名 4名
タイヤ生産企画部 平塚製造課	ロール救出訓練	22名
	タルク(防着液)流出時対応訓練 標準作業書とOPL教育	19名
	各原料の安全衛生についてMSDS重点管理1種教育訓練	18名
	カーボン飛散による緊急事態の対応訓練	41名
	混合パンパバリより出火初期消火訓練	18名
	後工程 屋内消火栓取り扱い訓練	25名



消化訓練の様子



防災訓練の様子



千年の社プロジェクト

「YOKOHAMA千年の社」プロジェクトとは、横浜ゴムが創業100周年を迎える2017年までに、国内外の全生産拠点に合計約50万本の植樹を行い「社」を作るプロジェクトです。2007年11月の平塚製造所での植樹祭を皮切りに本格的にスタートしました。

- 2007年11月:第1期植樹祭(3,500名参加、27,000本植樹)
- 2008年11月:育樹祭(1,200名参加)
- 2008年10月:第2期植樹祭(150名参加、1,481本植樹)
- 2009年11月(予定):第3期植樹会「環境を考える日」



## 環境データ

### PRTR対象物質

(単位:トン/年)

政令番号	対象化学物質	取扱量 <sup>※1</sup>	排出量 <sup>※2</sup>	移動量 <sup>※3</sup>	安全性影響度評価 Ⅲ-3			
					有害性ランク(人)	年間換算排出量(人)	有害性ランク(生態)	年間換算排出量(生態)
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	160	0	2.0	D	0	A	0
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	64	0	2.4	A	0	A	0
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	64	0	0.54	C	0	D	0
9	アジピン酸(2-エチルヘキシル)	53	0	2.0	A	0	A	0
227	トルエン	26	8.3	4.2	C	83	D	8.3
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	25	0	0.89	D	0	A	0
45	エチレンジクロロモノメチルエーテル	23	18	3.4	B	1,800	D	18
25	アンチモン及びその化合物	13	0	0.49	A	0	C	0
100	コバルト及びその化合物	12	0	0.10	A	0	—	0
270	フタル酸ジ-n-ブチル	7.8	0	0.28	A	0	B	0
63	キシレン	6.8	0.057	0.013	C	0.57	A	57
204	テトラメチルチウラムジスルフィド(チウラム)	2.6	0	0.097	A	0	A	0
266	フェノール	4.9	0.001	0.18	A	1	B	0.1
198	ヘキサメチレンテトラミン	3.0	0	0.99	C	0	D	0
129	ジウロン又はDCMU	2.6	0	0	B	0	C	0
24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	2.4	0	0.09	C	0	B	0
311	マンガン及びその化合物	2.3	0	0.085	A	0	—	0
299	ベンゼン	1.9	0.005	0	A	5	D	0.005
40	エチルベンゼン	1.4	0.24	0.002	C	2.4	A	240
197	デカブROMジフェニルエーテル	1.3	0	0.05	C	0	C	0
16	2-アミノエタノール	1.2	0.001	0.049	C	0.01	C	0
69	6価クロム化合物	0.69	0	0.01	A	0	A	0
	<b>総計</b>	<b>479</b>	<b>27</b>	<b>17.9</b>		<b>1,892</b>		<b>323</b>

(単位:トン/年)

政令番号	対象化学物質	取扱量 <sup>※1</sup>	排出量 <sup>※2</sup>	移動量 <sup>※3</sup>	安全性影響度評価 Ⅷ-4			
					有害性ランク(人)	年間換算排出量(人)	有害性ランク(生態)	年間換算排出量(生態)
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	61	0	0.50	A	0	A	0
273	フタル酸-n-ブチル=ベンジル	380	0	0.19	D	0	B	0
338	m-トリレンジイソシアネート	330	0	0	A	0	D	0
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	160	0	1.8	C	0	D	0
120	MOCA(3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン)	88	0	0	A	0	B	0
227	トルエン	53	0.52	1.4	C	5.2	D	0.52
311	二酸化マンガン	59	0	0.53	A	0	—	0
63	キシレン	35	0.069	0.28	C	0.69	A	69
176	有機スズ化合物	16	0	0.52	A	0	A	0
40	エチルベンゼン	14	0.028	0.11	C	0.28	A	28
266	フェノール	13	0	0.11	A	0	B	0
93	クロロベンゼン	11	0	0.005	B	0.2	B	0.2
230	鉛及びその化合物	3.1	0	0	A	0	A	0
204	テトラメチルチウラムジスルフィド(チウラム)	6.6	0	0.06	A	0	A	0
293	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	3.0	0	0	A	0	—	0
24	直鎖アルキルベンゼン スルホン酸及びその塩	2.5	0	0.014	C	0	B	0
300	1,2,4-ベンゼントリカルボン酸 1,2-無水物	1.5	0	0	A	0	A	0
	<b>総計</b>	<b>1236.7</b>	<b>0.6</b>	<b>5.5</b>		<b>6</b>		<b>98</b>

※1:取扱量は1トン以上を記載

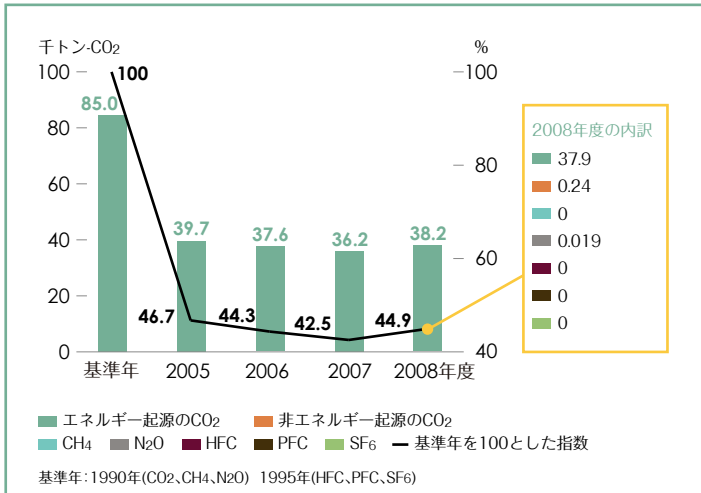
ただし、ベンゼン等の特定第一種指定化学物質は0.5トン以上を記載

※2:排出量=大気+公共用水域+土壌

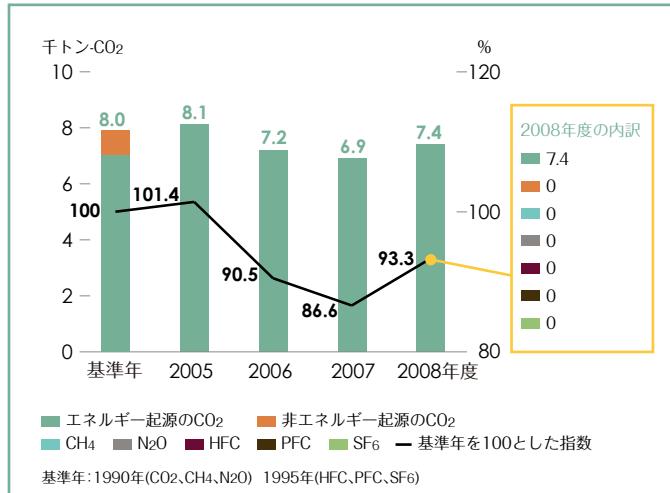
※3:移動量=廃棄物+公共下水道

### ■ 温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

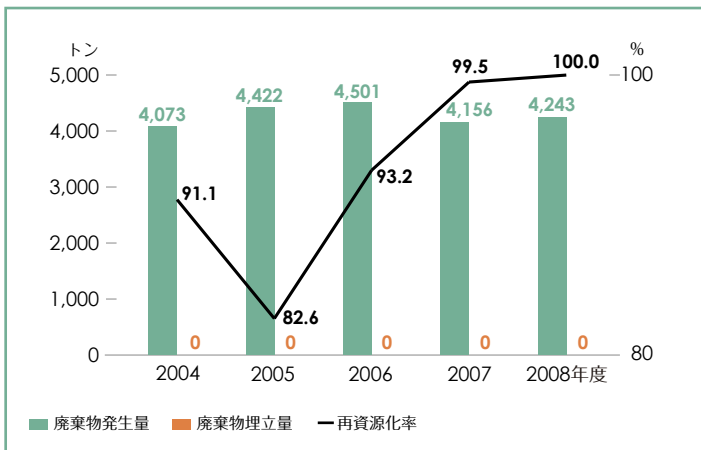
平塚製造所(法律対応に合わせ、事業所単位の開示としてあります)



ハマタイト工場(法律対応に合わせ、事業所単位の開示としてあります)



### ■ 廃棄物発生量と埋立量、再資源化率



### ■ 大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	自主管理値	2008年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所	窒素酸化物濃度(ppm)	80	76	61	70	51
	ばいじん量(g/h)	371	352	1	1.7	0.4
平塚製造所	窒素酸化物濃度(ppm)	45	42.8	31	33	28
	5号~6号ボイラー	ばいじん量(g/h)	463	440	3.4	5.5
平塚製造所	窒素酸化物濃度(ppm)	20	19	17	18	15
	コーゼネレーション	ばいじん量(g/h)	2,176	2,067	81	150
ハマタイト工場	窒素酸化物濃度(ppm)	60	57	25	25	25
	1号ボイラー	ばいじん量(g/h)	272	258	2.3	2.4
ハマタイト工場	窒素酸化物濃度(ppm)	60	57	25	25	24
	2号ボイラー	ばいじん量(g/h)	180	171	1.6	16

※大気汚染防止法、神奈川県条例に準拠、2008年度も規定違反なし

### ■ 水質関係測定データ(主要排水)

排水口	項目	規制値	自主管理値	2008年度実績		
				平均値	最大値	最小値
平塚製造所	PH	5.7~8.7	5.8~8.6	7.8	8.2	7.1
	BOD濃度(mg/l)	300	285	38	180	8
	SS濃度(mg/l)	300	285	30.8	140	6
	油分濃度(mg/l)	30	28.5	3	17	1未満
ハマタイト工場	PH	5.7~8.7	5.8~8.6	7.7	8.1	7.1
	BOD濃度(mg/l)	300	285	44	76	7
	SS濃度(mg/l)	300	285	54	130	9
	油分濃度(mg/l)	30	28.5	3	6	1未満

※平塚市下水道条例に準拠、2008年度も違反なし